

る」廣政は傲然として「ふ、仕方がない、僕ばたしかに英子娘を慕ふて居るものだ、君と決闘しよう、此僕は革命黨の總理、君は其部下だ、決して決闘は出来ない、そして僕も此期に及んでは最早君の無禮も咎めない、實は二三の卑劣なる黨員と僕が此英子に溺れたところから黨派の内輪より事がばれ出し、全く珊瑚黨の事業は失敗した、其處で多くの黨員は皆捕へられたり、自殺したりして、メチャク／＼になつて仕舞ふたが、君ばかりは高山侯爵の甥、特に侯爵を八重洲の古寺で助けたかどによつて免れて居るから、此後のことには就き、君に依頼して置くことがある、其事は此處に記録があるが、此記録は僕のあとを嗣で事業をやつて呉れる人に注意することだから、これを其人に渡して欲しいのだ、借て其人といふは君が師と頼む森君だ」と言ひながら、堅く封せし一箇の箱を廣政に渡しぬ、廣政は確かに承知したが、

君は一体どうする積りだ」比留間が答へず、こゝろを見れば、恐れおのゝき居たりし英子は、其身を比留間に投げ掛るやうにして、「どうぞ殺して下さい、私があなたを棄てやうとした罪をなす爲めに、比殺せよ、併し私はお前の悪いことを許す、お前も悪ければ、私も悪い、素よりお前を棄てようとは思はなかつたが、何分藤田大佐を始め黨員の多くが私がお前に感謝して夫れが爲め、黨派の取締りが出来ぬと言ふから、止むを得ずお前に會ひやう避けて居たのだ、英、それならまだ私を思つて居て下さつたのですか」と英子はさめ／＼と泣き出しぬ、英ア、私は先夜此顔をあなたに捧げてから、全くあなたの身体と思ふて居ました、併し其後私は此怖ろしい顔をさらつてお棄てなすつたと思ふて居たのです、此併しお前々其顔を見たら、英、イエ怖ろしいと聞きまして、比留間は何思ふたか、キラリと短剣を引抜くや否や、忽

珊瑚美人 終

至り、王室を顛覆し共和政府を造れり、此時藤田大佐は政府の
 將軍となりぬ、高山侯爵は幸ひにも此革命に會はずして死せ
 り、笠間夫人は英國に渡りて間もなく死去し、光子は或る製造
 家と結婚せしが、積悪の報ゆるところにあらず、其後海中に溺死せ
 しとぞ。

ち英子の假面の紐を切り放てり、假面は落ちぬ、英子が「アッ」
 と叫ぶと同時に比留間が照す燭の光り明るく、鏡にうつる英
 子の顔は、斯はいかに怖ろしき死面と思ひの外、色こそ少し青さ
 めたれ、尚ほ依然たる舊の美人なりし、英子は狂せるばかりに驚
 きて「それではあの毒といふは此毒でも何でもなし、人を欺く
 には當人自ら欺かばならぬ、だから假面を被つて、決して自ら
 顔を見るなど言つて置たのだ、そしてあの醫者は珊瑚黨の一人
 だ」斯く言ひながら比留間は早くも鏡の栓をぬき「所詮生き
 ては居られぬ、高山君頼むヨ」と只一言、ガブリと呑みし毒薬に、
 無残や、珊瑚黨の總理は此世を辞し去りぬ。
 斯くて後は英子と廣政は結婚し、禮一と秋子も終に高山侯爵
 の許しを得て結婚したり、珊瑚黨は七零八散して暫く巴里も
 静謐なりしが、森は終に比留間の遺志を継ぎ、千八百三十年に

明治廿八年十二月七日印刷
明治廿八年十二月廿一日發行

冊瑚美人

著者 編輯者 三宅彦彌

東京市京橋區龍山町二番地

發行者 鈴木金輔

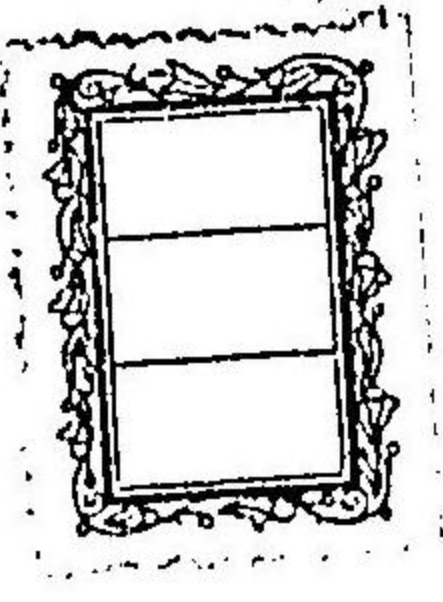
東京市淺草區南元町三十五番地

印刷者 前野茂久次

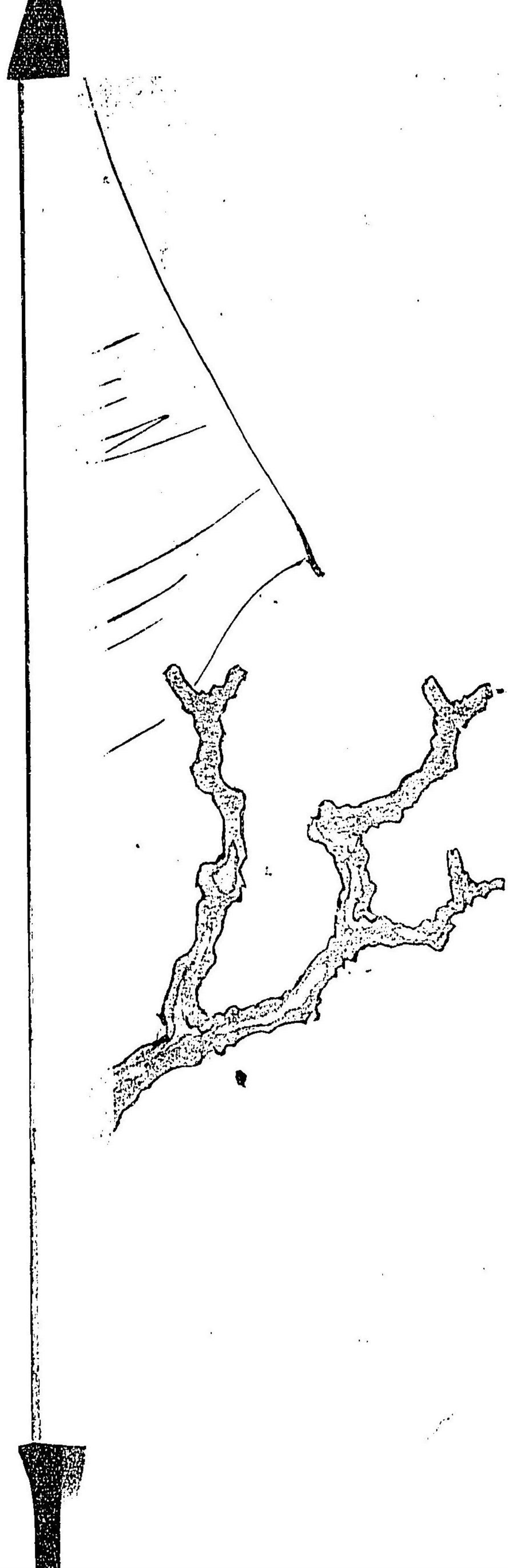
大阪市東區和泉町二丁目八番屋敷

賣捌所 大川錠吉

東京市淺草區三好町



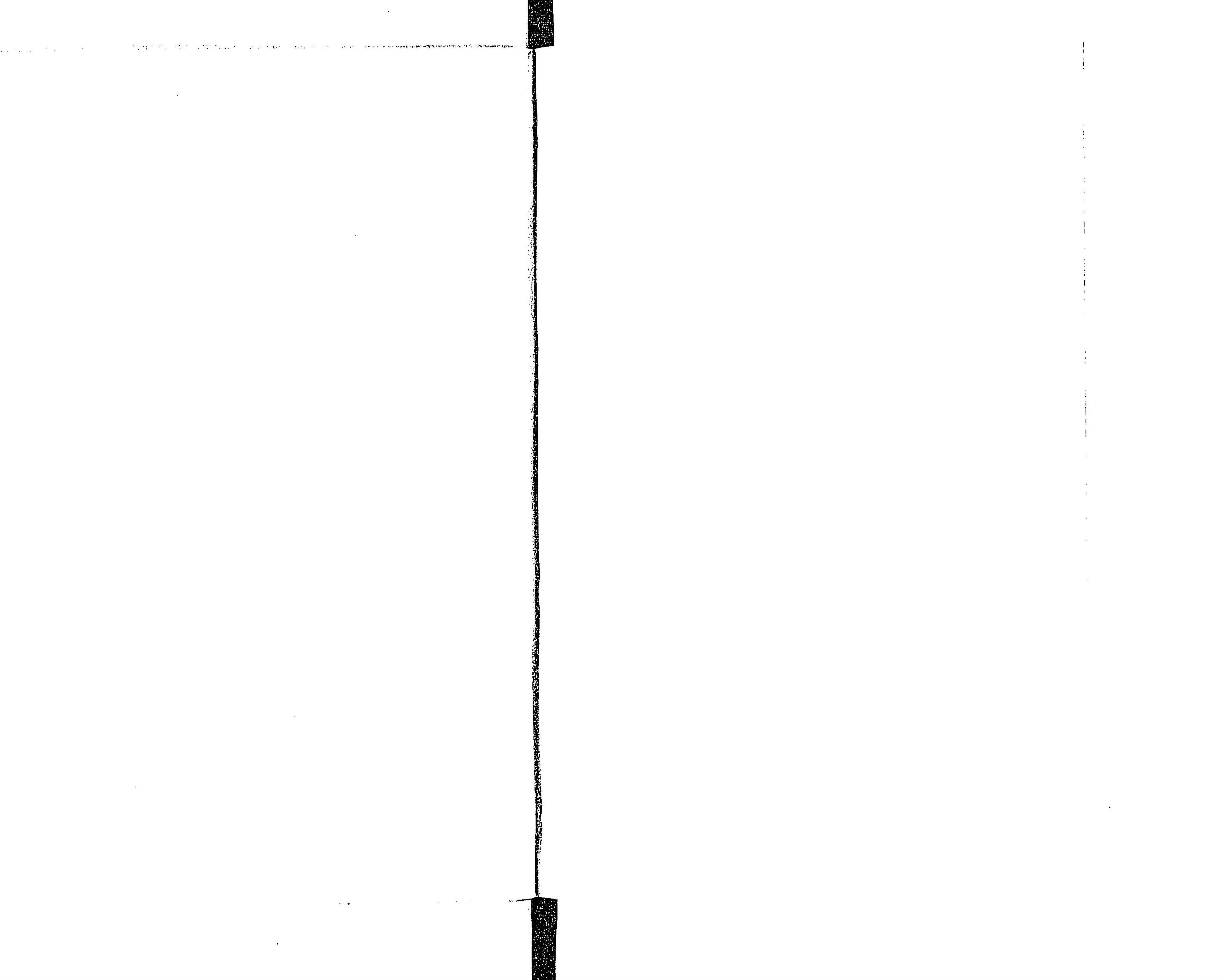
IFSW31



東京

之友堂

製行





特8

200

093880-000-0

特8-200

珊瑚美人

三宅 青軒/著

M28

DBQ-1313



